**街頭宣伝例**　2018年3月8日　　　　　　　　　　　　　　　　　　鳥取県委員会

ご町内のみなさん、こちらは日本共産党です。この場所から訴えをさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。

みなさん、韓国大統領の特使と金正恩（キム・ジョンウン）朝鮮労働党委員長が会談して、３回目となる南北首脳会談の開催など合意に達しました。注目は、北朝鮮が朝鮮半島の非核化の意思を明確にしたことです。金（キム）委員長は「北朝鮮に対する軍事的脅威が解消され、北朝鮮の体制の安全が保証されれば、核を保有する理由がない」「非核化は先代」、すなわち祖父、父の「遺訓」であるとまでのべました。まさに、朝鮮半島の核危機など、緊張を解決する重要な動きといえるのではないでしょうか。

トランプ大統領は、北朝鮮が示した対話姿勢について「非常に前向きだ。世界、北朝鮮、朝鮮半島にとってとても素晴らしいことだ」と評価しました。さらに、今後の進展について「われわれは何かをしなければならない。状況を悪化させてはならない」とも述べました。アメリカと北朝鮮の首脳による話し合いまでは口にはしませんでしたが、これまでの激しい対立・対決関係からの変化は明らかです。

日本共産党は、核開発をめぐって米朝関係がもっとも深刻化した昨年８月１２日、「危機打開のため米朝は無条件で直接対話を」との志位和夫委員長の「声明」を発表し、北朝鮮の核・ミサイル関係の６ヵ国、アメリカ、北朝鮮、韓国、中国、ロシアをはじめ、国連安全保障理事会の理事国、国連事務総長に声明をとどけ、直接、積極的に働きかけてきました。

今回の南北合意をうけ、国連事務総長、中国外務省、ヨーロッパ連合外相など、国際社会も歓迎しています。それなのに、安倍政権はどうでしょうか。安倍首相は「〝ほほえみ外交〟に目を奪われ、ぶれてはならない」などといって対話を拒否し、アメリカの先制攻撃をふくむすべての選択肢を支持する姿勢をとりつづけています。南北会談で、朝鮮半島の緊張緩和へ動き出そうというなかで、まさに日本だけが異常といえるのではないでしょうか。

志位委員長は談話で、日本政府に「これまでの対話否定・軍事一辺倒のかたくなな態度をあらため、いま生まれている北朝鮮問題の『対話による平和的解決』をめざす動きを促進し、それを実らせる立場にたち、あらゆる外交努力をはかるべき」とのべています。

みなさん、日本政府は「対話による平和的解決」を促進する立場にたて、この声をごいっしょにあげようではありませんか。どうぞ、よろしくお願いします。

安倍首相は、「北朝鮮の脅威」をあおり、改憲や軍拡の口実にしてきました。もちろん、北朝鮮は依然、北東アジアの脅威であることに変わりはありません。しかし、「非核化」を表明するなど、あきらかに変化を見せています。軍拡・改憲をあおることはやめ、ありのままの北朝鮮を見据え、対処していくことが、真に日本の安全保障につながる道ではないでしょうか。こうしたなかで、憲法をかえ、９条をかえるなど、北朝鮮問題の平和的解決にとって有害であり、もってのほかだというほかありません。安倍政権の９条改憲にたいして、どの世論調査でも、国民多数は反対です。力をあわせ、安倍改憲にストップをかけましょう。「安倍改憲ＮＯ！３０００万署名」にご協力ください。そして、日本共産党へのご支援をお願いして、この場所での訴えを終わります。ありがとうございました。

以上